

カツオ 東部太平洋

Skipjack *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・30 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：1 歳から始まる
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類等

利用・用途

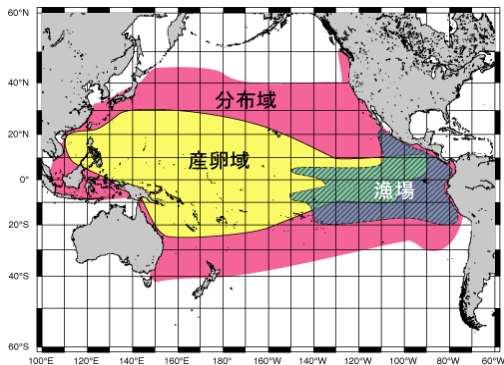
缶詰原料等

漁業の特徴

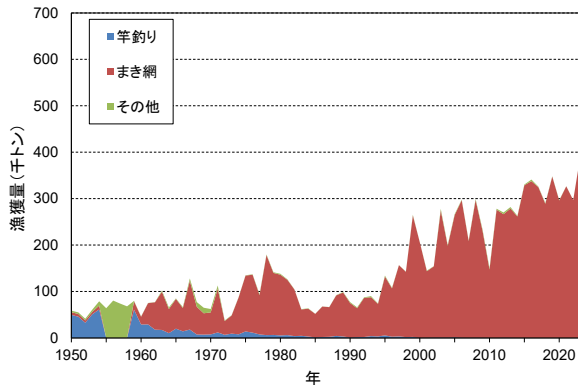
現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から南米北部沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、米国、コロンビア等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量はまぐろはえ縄操業によるわずかな量のみである。

漁獲の動向

1950年代までは竿釣りを主として約5万トンの漁獲であったが、1960年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990年代から漁獲量は増加傾向にあり、2015年以降は概ね33万トンを維持した。2024年はの漁獲量は約64万トンであり、過去最多漁獲量であった。



太平洋におけるカツオの分布と東部太平洋の漁場



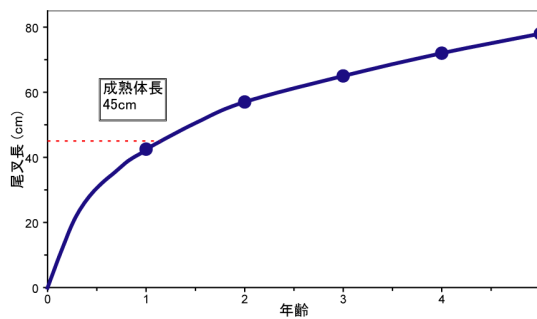
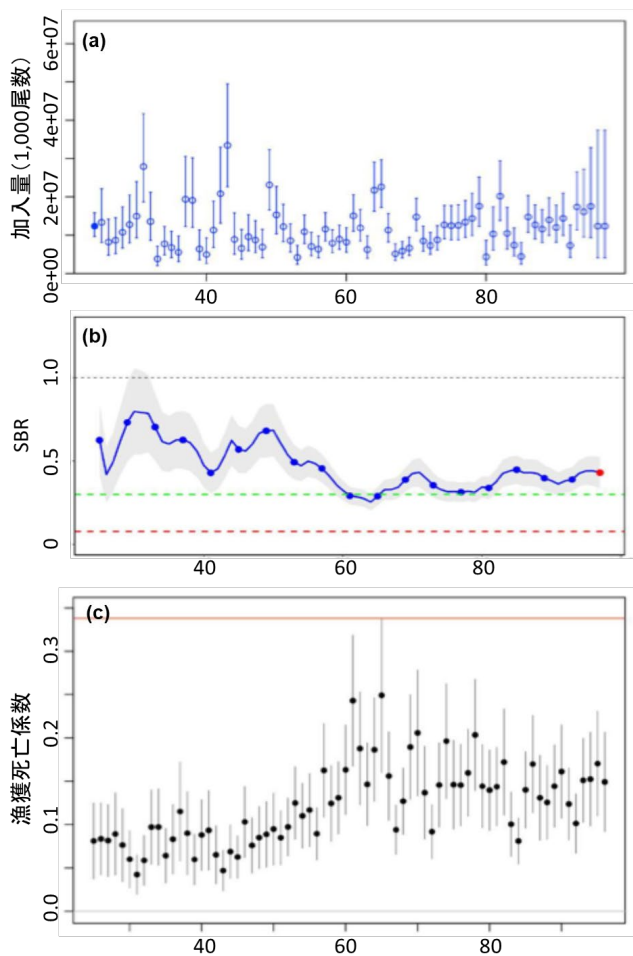
東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量 (1950～2024年)

資源状態

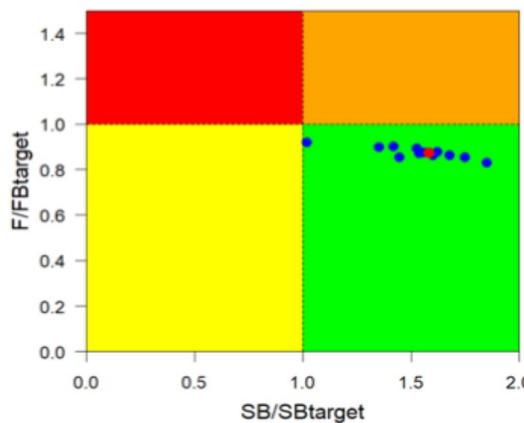
2024年6月にIATTC事務局によって、本種の資源評価結果が示された。資源評価モデルには、統合モデルのSS (ver 3.30) が採用され、計算期間は2006年から2023年までとし、モデルへの入力データに四半期別・漁法別漁獲量、サイズデータ及び音響プイと標識再捕データによる資源量指数が使用された。今回の資源評価ではMSYベースの資源量を計算できなかったため、メバチ、キハダで使用されているSpawning Biomass Ratio (SBR、漁業がない場合の産卵親魚量を1としたときの産卵親魚量の比率)、目標管理基準値をSBR=0.3、限界管理基準値をSBR=0.077としている。モデルから推定された近年(2024年第1四半期)のSBRは0.43と推定され、目標管理基準値及び限界管理基準値をいずれも上回る結果となった。漁獲死亡係数についても、評価期間を通じて顕著な増加傾向は認められず、目標基準値(F_{target})に対する最近年の漁獲死亡係数($F_{current}$)の比($F_{current}/F_{target}=0.87$)は1を下回った。これらの結果から、本資源は過剰漁獲に陥っておらず、乱獲状態でも無いと判断された。

管理方策

IATTC事務局および科学諮問委員会からの勧告に基づき、2025年9月に開催された第103回年次会合において、熱帯まぐろ類を対象とする新たな保存管理措置が採択された。この措置は2026年1月1日から適用され、まき網漁業に対する64日間の全面禁漁(メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長)、沖合特定区での1か月間の禁漁、FADの使用数の制限や、はえ縄漁業に対するメバチの漁獲枠の設定等を含む。当該管理措置は、科学的な検討に基づき有効性が確認されない限り2026年までの適用となり、有効性が確認された場合は2028年まで継続される。



東部太平洋におけるカツオの成長曲線



カツオの最新年(2024年第1四半期)の資源状態を表すKOBEPロット。リファレンスモデル(赤点)と感度解析(青点)の結果

加入量 (a)、Spawning Biomass Ratio (SBR: 漁業がない状態の産卵親魚量を1としたときの産卵親魚量の比率) (b)、漁獲死亡係数 (c) の推移

横軸は2000年第1四半期を起点として四半期ごとの経過数を示す。

- (a) 縦のエラーバーは95%信頼区間を示す。
- (b) 灰色の陰影は80%信頼区間、赤点は2024年第1四半期の値及び緑と赤の点線はそれぞれ目標管理基準値(SBR=0.3)と限界管理基準値(SBR=0.077)を示す。
- (c) 縦のエラーバーは95%信頼区間、赤線はSBRが0.3のときの漁獲死亡係数を示す。

| カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表） | |
|-----------------------|--|
| 世界の漁獲量 （最近5年間） | 29.7万～64.2万トン 最近（2024）年：64.2万トン 平均：39.0万トン（2020～2024年） |
| 我が国の漁獲量 （最近5年間） | 18～32トン 最近（2024）年：18トン 平均：21.4トン（2020～2024年） |
| 資源評価の方法 | 統合モデル（SS）による解析 |
| 資源の状態 （資源評価結果） | SBR: 0.43 現在のSBRは 目標管理基準値（0.3）及び限界管理基準値（0.077）を上回る $F_{current}/F_{target}: 0.87$ 近年（2023年）の漁獲死亡係数は目標管理基準値を下回る 当該資源は乱獲状態でも過剰漁獲でもない。 |
| 管理目標 | 検討中 |
| 管理措置 | 特定の措置はなし （メバチ・キハダの保存管理措置として、以下の措置がまき網漁業に対し導入されている） ①64日間の全面禁漁（ただし、メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長） ②沖合特定区での1か月の禁漁 ③集魚装置（FAD）の使用数制限 |
| 管理機関・関係機関 | IATTC |
| 最新の資源評価年 | 2024年 |
| 次回の資源評価年 | 未定 |